

君の名は if (君の名
は、改, 君の名は、続)

, あゆ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

映画君の名は。で瀧と三葉は時間がずれています

それを口噛み酒の副作用（設定）で時間が同じになってしまいます

そこから先を描いた作品です

目次

第0話	1
1話	6
瀧みつ最速再開	11
2話	16
3話	21

第0話

《《《人物紹介》》》

立花 瀧・・・主人公で、糸守の救世主。三葉のことが大好き。7誕生日は7／23

立花 龍一・・・瀧の父親。三葉の煮物が好き。12／23

宮水 三葉・・・ヒロインで、瀧にベタ惚れ、瀧を呼ぶときはいつも、「瀧くん」である。10／14

宮水 四葉・・・三葉の妹。小学生のくせに色々知っている。結構危ない。（取り扱い注意）4／2

宮水 一葉・・・三葉、四葉の祖母。入れ替わりについて気づいている。神の気配を読み取れる。8／3

宮水 俊樹・・・三葉、四葉の父親。家出をしている。3／22

宮水 二葉・・・三葉、四葉の母親。四葉を産んだ3ヶ月後に病で亡くなる。8／9

名取 沙耶香・・・三葉の友人。呼び名は「サヤちゃん」6／4

勅使河原 克彦・三葉の友人。呼び名は「テッシー」11/2

(オリキヤラ)

江麗 岸人(えれ きしと)・・・三葉の友人。呼び名は「キッシー」10/9

霧崎 結衣(きりぎき ゆい)・・・三葉の友人。呼び名は「ゆいっち」3/2

(原作の人物紹介)

立花 瀧(たちばな たき)

声 — 神木隆之介

本作の男性主人公で、東京の都心「注 3」に住む男子高校生。2016年の時点で東京都立神宮高校の2年生で、実は三葉より3歳年下。

霞が関勤務の父と2人暮らしのようで、新海は「母親は数年前に離婚したんだと思っています」と述べている「30」。家からは東京タワーが見える。絵を描くのが得意で、建築や美術に興味を持っている。

日々友人たちと楽しく過ごし、イタリアンレストラン「IL GIARDINO D'ELLE PAROLE」注 6でアルバイト中。同僚の奥寺先輩へひそかに好意を寄せている。

宮水 三葉(みやみず みつは)

声 — 上白石萌音

本作の女性主人公で、山深い田舎町の岐阜県糸守町に住む女子高生。2013年の時点で岐阜県立糸守高校の2年3組で、実は瀧より3歳年上。

妹とともに宮水神社の巫女を務める。母親の二葉は病死、町長である父・俊樹は家を出ており、祖母の一葉、小学生の妹の四葉と3人で暮らしている。

家系の神社や父の選挙運動、田舎の生活などに嫌気がさしており、東京での華やかな暮らしに憧れている。

宮水 一葉（みやみず ひとは）

声 — 市原悦子「31」

三葉の祖母で宮水神社の神主。2013年の時点で82歳。

三葉の母である二葉が亡くなり婿養子の俊樹が家を出たあと、孫の三葉と四葉を育ててきた。

宮水 四葉（みやみず よつは）

声 — 谷花音「31」

三葉の妹。しっかりした性格をしており、2013年時点で小学4年生。祖母や三葉と一緒に、神社の家業を手伝う。

宮水 俊樹（みやみず としき）

声 — てらそままさき

三葉の父。2013年の時点で54歳。民俗学者、宮水神社神職を経て、糸守町の町長。加納新太による外伝小説では旧姓溝口。三葉の町民避難要請に対し、「戯言」「妄言は宮水の血筋か」と言い一蹴する。

宮水 二葉（みやみず ふたば）

声 — 大原さやか

三葉の母。作中ではすでに病気のため故人となっている。夫の俊樹より12歳年下。加納新太による外伝小説では、半ば神のような人間離れした存在として町民の信仰を集めていたことや、死因は自己免疫疾患であったことが描かれている。

勅使河原 克彦（てしがわら かつひこ）

声 — 成田凌「31」

三葉の同級生。ひそかに三葉が好き。あだ名は「テツシー」。月刊「ムー」の愛読者でオカルト好きの機械オタク。

父は建設会社・勅使河原建設の社長で、自身も休日には手伝いをしている。2021年12月には東京で早耶香と近々結婚する話をしていた。

勅使河原と早耶香は、新海の前作『言の葉の庭』の小説版では第7話で登場する相澤祥子の中学時代の友人である勅使河原と早耶香から名前を取っている「32」【注 7】。

名取 早耶香（なとり さやか）

声 — 悠木碧〔31〕

三葉の同級生で、親友。穏やかな性格で勅使河原に好意を持っている。あだ名は「サヤちゃん」。2021年12月には勅使河原と近々結婚する話をしていた。原作小説では祖母や姉が代々町役場の町内放送担当であったことが書かれており、町役場に勤める姉も劇中にて一瞬だけ登場する〔33〕。作中で瀧達が古川図書館で調べた『糸守町彗星災害 犠牲者 名簿目録類』では、誤って「沙耶香」と書かれている。（制作途中のキャラクタ―設定画では「沙耶香」という表記が使われていた〔34〕）

勅使河原と早耶香は、新海の前作『言の葉の庭』の小説版では第7話で登場する相澤祥子の中学時代の友人である勅使河原と早耶香から名前を取っている〔32〕〔注7〕。

1話

第1話 ご神木

side 瀧

朝起きるところがどこかわからない時がある。それは多分あの日から……
それはまるで夢……そう思っていたが日が経つにつれ現実だとわかった
そして2013/10/4に彼女^{みっは}は死んでいた。

ラーメン屋

「おう兄ちゃんそれ糸守じゃろ。懐かしいなあ。なああんた」

おばさんが厨房のおじさんを呼ぶ

「おう、こりや糸守だ」

「この人糸守出身なんや」

おじさんたちが話をしているが瀧はイトモリのことを考えている

「そうだ……糸守……糸守町！この近くですよね!？」

「おい瀧それ間違っていないか？」

「あの糸守？」

奥寺先輩と司が目を合わせる

「糸守って彗星の!?!」

「え? 違う糸守は景色が綺麗なのどかな田舎町だ!」

「3年前お前だつて見ただろ」

。。。そうだあの時ティアマト彗星が日本の一つの街を破壊した。その町の名前は…糸守

ラーメン屋の外へ

「おうあんた一人でいいんか?」

おじさんが聞いてくる

「はい、もともと俺のわがままについてきてもらつてただけなので」

「そうかじゃあ行くぞ」

少し走っているとひょうたん型の湖が見えてきた

「お兄ちゃんあれが糸守湖だ」

糸守湖……………

「すいません!ここで降ろしてください!!!」

ここには見覚えがある、確かこの山の頂上に……
700mほどだろうか？

そのくらい山の山に登った。すると頂上には……空中庭園が広がっていた
そして後ろにはさっきの糸守湖が見えている
そしてこの空中庭園にある大きな石に向かって歩く

「ここから先は隠り世……………」

真ん中の石に着くと穴があつたので入ってみる
すると石の瓶が2つ

よくわからないがお酒のようだ

多分これを飲めばあの人のところへ行ける……あの人つて誰だ？

(ぐくぐく)

バシユツ！（記憶が蘇る）

「はっ、三葉！三葉！そこから逃げろ！」

どんなに叫んでも気がつかない

彗星だ

「三葉！そこにいたら死ぬ！今すぐ逃げろ……あ、あ、落ちるぞー！！！」

怖くて目を瞑る

すると……

2013/10/4 6:30 (side三葉in瀧)

四葉「お姉ちゃん朝やよ！はよ起きい!!？」

三葉(瀧)「あ、あ…四葉ちゃん、四葉ちゃん」

四葉「げっ」

四葉が部屋から出て行く

四葉「おばあちゃん!!!どうどうお姉ちゃんがおかしくなってもうたー」

一葉「三葉も何かしたいことがあるんじゃないやろ、見て見ぬふりじや、なあ三葉!」

学校へ

テツシー、サヤちゃん「げっ、なんやその髪はく!」

三葉(瀧)「ああこれ?やっぱ前のが良かったか?」

三葉(瀧)「そんなことよりこのままじゃ今日みんな死ぬ」

クラスメート「はっ?」

松本「どうどう宮水がおかしくなったか」

クラスメート「はははははは(大爆笑)」

ガン!!! (机倒す音)

松本「ひっ」

三葉（瀧）「もうお前許さねえ！彗星にあたって死ぬ！」

クラスメート「え？」

三葉（瀧）「今日ティアマト彗星がおちんの！わかる？」

10 / 4

17 : 00

御神体

三葉「瀧く…ん？瀧くん！瀧くんがおる…瀧くんがおるんよ！」

瀧「俺はここにいるよ。今から言うことをしっかり聞いて、今日の20:42にティアマト彗星が落ちる。だから、三葉のお父さんのところへ行つて説得してきてくれ。そうすればみんな生き残れる。あとなんで中学の俺に会いに来るの？知ってるわけないじゃん」

三葉「え、ええ、ええええええー!!!じゃあ私の勝手な思い込みの勝手な嫉妬つてこと!?!うう最悪…」

瀧みつ最速再開

10/4

17:00

瀧「やつと会えた。再開方法考えたんだ。ペン持ってきたからいろんなところに会う時間書くといいと思う」

三葉「書く！」

カキカキ

瀧「よしかけた」

2016/10/6

瀧「あと、今から言うことを信じてその通りに行動して、このままだと三葉もテツシもさやちゃんも四葉もみんな死んじゃう。だから、三葉家族と他生き残って欲しい人を連れて東京へきて、交通費とバイト代、住まい代も払っとくから(126000円)あ、パントリーキ代と司や高木との東京散策分は、バイト代から抜いてあるから、

絶対だよ。絶対来い、きてくださいお願いします。」

次の日

瀧（三葉）「ええー!!? □×ー」

瀧父「瀧ー朝から大声出すなー」

瀧（三葉）「はーい」

東京駅

三葉（瀧）「どこ、どこ? 東京駅じゃん。なんで三葉こんなところで寝てんのw」

三葉（瀧）「とりあえず、ビジョン見る限り、彗星は落ちたみたいだけど、三葉はここに
いる?」

三葉（瀧）「あ、テツシー、起きろ。俺だ」

テツシー「なんや三葉、昨日なんか疲れ果てとつたんによく起きれるなって『俺だ』?

お前もしや、狐憑きか?」

三葉（瀧）「狐憑きやめてくれ、俺は瀧だ。立花瀧だ。」

テツシー「でどうすんだ?」

三葉（瀧）「とりあえず、聞きたいこといっぱいあるからカフェ行こうぜ」

カフェ

テツシー「で聞きたいことって?」

三葉（瀧）「なんで三葉が東京にいるのか、テツシーがいるのになんで四葉ちゃんやさ
やちんがいないのか」

テツシー「三葉が東京に行かんと死ぬって言いだしよって、一葉ばあちゃんが克彦くんについて行つとくられて言うから来た。他のみんなは高山へ行った。」

三葉(瀧)「ok把握した。とりまうち来て、多分俺が秋休み(神宮中学校は夏やすみが短い)が秋休みがある)でいるから、一応一昨日会いに来た変な女子高生として認識して忘れるわけはないはずだから入れると思う」

テツシー「了解」

瀧宅前にて

403 ピツ

瀧「はい」

三葉(瀧)「おrじゃなくて私一昨日会いに来たと思うのですが故郷糸守が彗星被害を受けてしまったので、少し、説明も含めてお邪魔したいのですが」

ピー

瀧「開けました」

瀧宅にて

瀧「でなんででしょうか？」

テツシー「瀧ーそんなに固くなるなってゆるーく行こうぜゆるーく」

三葉(瀧)「それでちょっと私いつもみたいに話してもいい？」

瀧「あ、はい」

三葉(瀧)「それで俺の名前が立花瀧、そっちがテツシー別に本名覚えなくていいよw」
テツシー「あ！よくないにん。俺は勅使河原克彦やさ。よろしく」

瀧「え？瀧って??？」

三葉(瀧)「説明するから、まずお前が高校2年になると俺の今の体の持ち主宮水三葉と入れ替わる謎現象に見舞われる。そして彗星から守らないといけない。」

次の日

瀧 side

「今日は無しか。今日は三葉が会いに来るんだよな。」

ピーンポーン

「はーい」

三葉「宮水みつh瀧くん！はよ開けて」

「待て待て焦るな」

ピー

「開けたよ」

三葉「やっと会えた。こっちは3年も待ったんやよ。」

「ごめんって」

三葉 「この3年の空白は80年かけないとトレマセーン」

「ごめんってそれでそういうことでいいんだよね？」

三葉 「いいよ」

「あれやろ」

瀧・三葉 「君の名は。」

2話

2話 昔の話

2017/10/4 8:00 (side 瀧)

今日は10/4何か大事な日だったはず、だけどそれは思い出せない…

瀧父「瀧ー手紙が来てるぞー」

俺に手紙? 珍しいな

「親父、誰から?」

瀧父「宮水 三葉さんから知り合いか?」

「え? 三葉から? 知り合いだよ。貸して」

瀧くん覚えてる? 今から言うところにすぐ来て

須賀神社

あと覚えてない場合はこの文の下にレモン汁を垂らして必要な昔のことと日記があるから

日記 2013/10/4

今日は秋祭りの日。楽しかった。でも彗星も落ちちゃった。今はさやちゃんとテツシーと一緒にいる

だから怖くはない。さつき野次馬が来たけどおばあちゃんが怒鳴って帰らせていた。

今は暇で仕方がない。電気は私たちが変電所破壊したから届いてないけど、支援物資がさつき国から届いた。

日本は、支援が早くて助かる。その中にモバイルバッテリーが入っていて充電器も入っていたので、日記を書いている。早く瀧くんに会いたいけど、ちゃんと日記を残さないと忘れてしまうから。

2016/9/15

今年が彗星が落ちてから4年目

今私は東京の新宿瀧くんの家のマンションの上の階から瀧くんを見守っている。だけれど会わない、会えない。東京に出て来て1日目の夜、夢でお母さんに今会ってしまうと運命が途切れてしまうから10/4以降にしなさいと言われているからだ。だけでもうすぐ10/4あと半月の辛抱で瀧くんに会える。もう少し待てば。会える

何も覚えてない瀧くんへ

瀧くんの時間で2016/9/18〜2016/10/3まで私と入れ替わって生

活していました。だけど私が死んでしまったことを境に入れ替わりがなくなっていました。でも10/11瀧くんが飛驒に遊びに来てその時に糸守にも来て私のアレを飲んでしまいました。でもそのおかげで私は生きています。多分もう思い出したと思うけどまだ思い出せないなら須賀神社に来てそしたら詳しく教えるから
「忘れるわけないじゃん」

須賀神社

「三葉ー」

三葉「瀧くん！会いたかった」

「よかった。会えたあの時言いたかった言葉今言ってもいい？」

三葉「いいよ」

「もしお前が世界のどこに行っても絶対にまた探して逢いに行く」

三葉「瀧くんかわいい」

「なっ」

三葉「あ、そうだ瀧くん入れ替わるたんびに胸揉んどったやろ」

「あ、あれは出来心というかなんというか……その、ごめんなさい！」

三葉「それと私は3年長く待ったんよ！責任とってよね！」

「ごめんって。それは俺に言わないで神様に言え。3年ずらしたのは神様なんだから」

三葉 「もういいよ、とりあえず家帰ろ今日高校は？」

「今日は秋休みで休み」

三葉 「じゃあ一回家帰ろつか」

「三葉の家はこっちななの？」

三葉 「うん去年上京してそのままマンション暮らし家賃高いけど新宿に住んでる」

「俺の家こっちだけど三葉向こう？」

三葉 「私もこっち」

「じゃあもうちよつと話せるな」

「そくだ彗星どうなったの？」

三葉 「あのあと私たちがやったことはバレたんよでもお父さんとおばあちゃんが隠してくれたおかげで知ってるのはうちの家族とさやちんの家族とテツシーの家族と町役場の一部の人だけ、瀧くんの知らせはお父さんの予言として野次馬が持つて行ったよ」

「宮水町長予言！っていう雑誌なら見たことある」

「三葉？もううちついちやつたけどもつと向こう？」

三葉 「うちはね、瀧くんの家の部屋の上だよ」

「だから時々夜中ドンツ！ってベットから落ちる音が聞こえたんだな」

3話

3話 彗星再び

今俺は、宮水神社のガルデラ御神体に來ている。

なぜここににいるのかと言うと三葉に口噛み酒の回収を任されたからだ。

俺はここで、これからの生活人生に関わることをしてしまった。

仕方無かったのだ。もう一度入れ替わりたいたいと言う気持ちが大きかったのだ。

2013 / 9 / 21 6 : 30

瀧side

「ハハハはははは？」

周りを見してみる

「ハハハは三葉の家だ！」

「つてことはまた入れ替わってる!？」

「やった！成功したんだ！」

???じゃあ今三葉は東京か

.....

.....

.....

.....

.....

え？待って待ってこの和風の部屋これは三葉の部屋これは間違いないんだけど、何かおかしい2021年で入れ替わったら普通3年前だから2018年に来るはず。それなのにこの部屋、家が残ってるってことは……10/4より昔に来たってことか！

「やばいやばいよこれは」

四葉「何がやばいんやさ？お姉ちゃん、ごごは・ん！はよ来ない！」

「ちよつと四葉！今日って西暦何年何月何日だっけ？」

四葉「お姉ちゃん大丈夫？今日は2013/10/4やさ！」

同日 8:00

さやちん「おーい三葉ー」

「あーさやちんおっはよ〜」

さやちん「今日は、おかしい三葉なんね」

「さやちん話があるんだけど」

さやちん「？」

「テツシーこつち来てー」

「話つて言うのは俺、三葉じゃないから」

テツシー「そう言うことか。異次元からの接続に応答してしまい記憶喪失になり…」

さやちん「はいはい。テツシーは黙つてて。ストレス溜まつてるんやない？」

「テツシー、さやちん真剣に聞いて！本当だから」

さやちん テツシー「本当なの？」

「本当。だから手伝つて！」

この後

テツシーはオカルト要素で食いつき協力してくれることに、さやちんは、何もなかったら、屋台でいろいろ奢るといふことでテツシーと2人で、買収した。

そして廃部した部室で作戦会議

「それで、彗星が落ちる中心は、宮水神社境内そして、作戦はこう。まず、テツシーが会社から含水爆弾を盗む。私はカタワレ時に御神体に行く。そして…」

テツシー「ちよつと待て、なんでカタワレ時にお前はいないんやさ？」

「テツシー安心してこれは3回目だから、信じて！」

テツシー「お、おう」

「それで、そのあと私が、役場から周波数をパクつてくる」

テツシー「ほう、電波ジャックしてさやちゃんに避難放送させると、」
「わかっているじゃんww」

さやちゃん「私が放送!?!どこから?」

テツシー、三葉「放送室」

というわけで担当が決まった。

「それで避難場所は、糸守高校。被害範囲外、町内ゆういつの半壊範囲、そして1500人が、自衛隊到着までの一晩分の食料が、ある給食室」

「そして俺が、町長を、カタワレ時までで説得、内容は、避難指示をだして。だと失敗するけど、彗星が割れたら避難指示をだしてなら全員助かる。」

さやちゃん「でもそれだと避難が間に合わないんじゃない?」

「それは大丈夫。彗星が割れるのが6:40くらい、10/4のカタワレ時が5:58だから、そして糸守町落下が、8:42。全然間に合う」

「俺が三葉の中にいるのは、カタワレ時までそのあとは自分の体になる。だから、6:30くらいに三葉とここにくるからさやちゃんは、先生たちに見つかるとしてテツシーは会社の人たちに、だからとにかく逃げて、ここについて、6:00には、町長も異変に気がつくから、あの人昔は考古学者だったし」

テツシー「わかった、なら全員助ける。」

さやちゃん「私も」

これで作戦会議は終わり。

同日 14:00

糸守町役場

(とにかく町長のところへ！)

町長「どうした。三葉。そんなに慌てて、みつともない。胸を張って歩け！」

「そんなこと言っていないで！今日彗星が割れたら、糸守高校に避難指示をだして！」

町長「わかった。だが、今日彗星が割れなかつたら、高山市内の病院に診察に行くかな！私も一度は割れるかもしれないと思ったからな」

「ありがとう。」

同日 14:00

勅使河原建設

(確かこの辺に)

テツシー「あつた！」

テツシー「全部もらおうw」

同日 14:00

作戦会議室

「さやちん「えーつとここに落ちるからここが壊れてここは…わかんない！」

「スマホを取り出し、三葉に

「もしもしーっ！」

『何さやちん』

「避難場所が高校、中心は境内、カタワレ時に三葉はいない。あつてる？」

『あつてるよ。そうだ周波数が、放送室行けばわかるけど、F W 5 5 6, F M 2 4 6 メ

モしといて』

「わかったじゃあね」

同日 17:00

作戦会議室

「じゃあ私は御神体行くから、」

「テッシー「30分後にな！」

「さやちん「本当に行くの？」

「三葉に合わないと消防団が動かないの」

「じゃあね」

同日17:55 瀧 in 三葉 S I D E

ガ
ル
テ
ラ
御神体

「三葉ー！」

三葉 in 瀧 「瀧くんどこ？いるのー？」

「俺はここにいます。もう直ぐカタワレ時で2013年に戻れるから！」

17:58

チャリン（組紐の鈴の音）

元に戻る。 瀧 SIDE

「三葉ー！」

三葉 「瀧くん！」

会えた！夢じゃなかったんだ。やっぱり本当だったんだ！

「三葉悪いけど、作戦会議室に戻るよ。」

三葉 「ダメだよ。ここを出たら また記憶が」

「大丈夫、これがあるから、はい」

組紐を三葉に渡す。

三葉 「組紐？」

「その端を持ってて。このまま出れば大丈夫。俺は、このまま2013年から生活だ
けど」

世界の修復機能だ。それを越えられるのが組紐だ。だけどそれをする、2人の昔に

揃えられるから俺は、3年やり直しなのだ。

18:30

作戦会議室（瀧SIDE）

三葉「テツシー、さやちん」

テツシー「三葉か？狐つきではないな」

さやちん「三葉」

テツシー「それでお前が、狐か」

「テツシー狐つてやめてくれ。俺は立花瀧だ。」

テツシー「おう瀧か、よろしくな！」

三葉「じゃあ私は、お父さんのところに行く。避難指示をだしてくれなかったら困るから。」

「わかった。じゃあ、必ず糸守高校で」

テツシー「それでだ。そろそろ町長も気づきはじめるんだろ？お前が考えた作戦なら。」

「ああそろそろだ。俺はこれが終わったら東京に帰るから、その時の理由を考えたんだけど、どう考えても怒られるから三葉を含めたこの4人は、友達で飛驒に家があるから岐阜に遊びに来たついででその後災害…いや後にする」

18:39

テツシー「割れとる……!」

さやちん「ああ、ああ、マジで割れてるよ……!!」

「これから避難だ。」

「さやちゃんは、家族と高校へ! テツシーは俺と一緒に来て」

テツシー「避難指示だろ。俺がやるから、お前は四葉ちゃん達迎えに行け!」

「わかった。頼むよ。」

18:50

三葉宅

ガチャリ

「四葉ちゃん!」

四葉「あ、……誰?」

「今はいいから! さやちんは避難してる。テツシーも避難指示をだしてる。」

四葉「なんで?」

「空! 彗星が割れたの! 町長が避難指示をだしてる。おばあちゃんは?」

四葉「おばあちゃん! 避難やさ!」

「おばあちゃん背中、早く。後1時間半で落ちるから」

ガチャリ

俊樹「お義母さん！君は誰だい？」

「瀧です。三葉の友達です。」

「避難させるために来ました。」

俊樹「そうか。四葉！お前は、瀧と三葉と高校へ走れ！」

四葉「おばあちゃんは?!」

俊樹「私のバイクがある。直ぐに行くから先に行きなさい。」

三葉「…」

19:40

通学路

テツシー「瀧、三葉！」

さやちん「三葉く」

「高校へ走って！」

三葉「全員助かるよね？」

「俺のプランだ。狂うと思う？」

三葉「思わない！」

四葉（完全に存在忘れられてるわあ）

20:28

役場の人「町長1500人+1人全員います！」

俊樹「よしそれじゃあ、呼びかけを」

役場の人「避難ありがとうございます。この後宮水神社境内にティアマト彗星が落下します。皆さんは校舎から離れ座っててください。予想落下時刻は20:42です。ただいまは20:34です。落下時刻になったら目を瞑り身をかがめてください。被害範囲は糸守湖南全域全壊、北半壊です。」

20:42

彗星落下

役場の人「身をかがめてください！」

ぐっ

町の人たち「助かった!」「生きてる!」「うちが……まだローンもあるのに!」「よかった。」「この後どうすればいいの?」

テツシー「三葉! 瀧! さやちん! 四葉ちゃん!」

「あ 俺生きてるぞー」

三葉「無事」

さやちん「死んだ? 生きてる? 生きてる!」

四葉「生きてます。お父さんが話あるって瀧さんも一緒に」

俊樹「三葉、すまなかつた。お前の言ったことを信じられなくて」

三葉「私に謝らんで瀧さんに謝って、これを予言したのは瀧くんだから」

俊樹「すまなかつた」

俊樹「克彦くん、早耶香ちゃん。いつも三葉と仲良くしてくれてありがとう。」

10 / 5

糸守高校

俺たち5人は一夜過ごし今日自衛隊で高山市に移動となった。